

# 授業のちょっと×2ハンドブック Ver2.0

神奈川県立厚木清南高等学校 定時制・通信制  
多様な学習を支援する高等学校の推進事業  
201804

## 1. はじめに

厚木清南高等学校は全日制・定時制・通信制の三課程があるフレキシブルスクールです。

平成 27(2015)年より 3 年間、定時制と通信制が文部科学省より、「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の調査研究事業を委託され、研究を推進してきました。授業でのユニバーサルデザインの視点を「いつもの授業にちょっとした工夫とちょっとした配慮」(授業のちょっと×2)とし、授業者誰もが取り組むことができる柱としてきました。このハンドブックは Ver1.0 の具体例を分かりやすく示すとともに、「授業者みんなが取組める視点」に立ち、継続した取組が教職員全体にさらに深く浸透することを願って作成したものです。

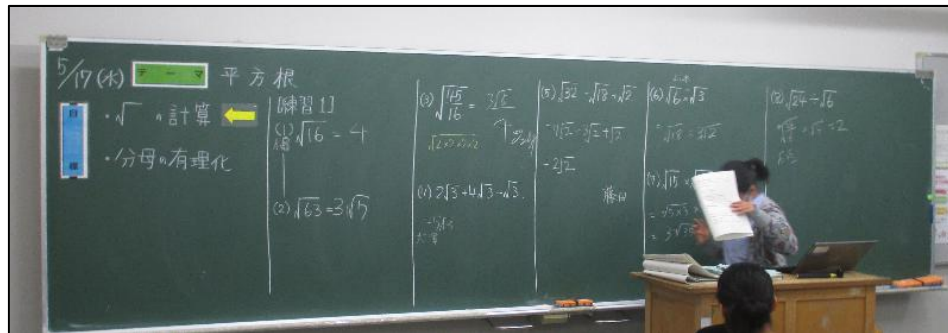
## 2. 本校定時制・通信制の生徒の状況

本校には学習上の困難さ、自己表現、物の管理が苦手等の課題をもつ生徒が多く在籍しています。一人ひとりの生徒の教育的ニーズを踏まえながら、卒業後にできるだけ困らないように指導・支援を行っていくことが大切です。そのために、授業を中心とした学習活動においてすべての生徒にとってわかりやすい授業実践(授業のちょっと×2)が求められています。

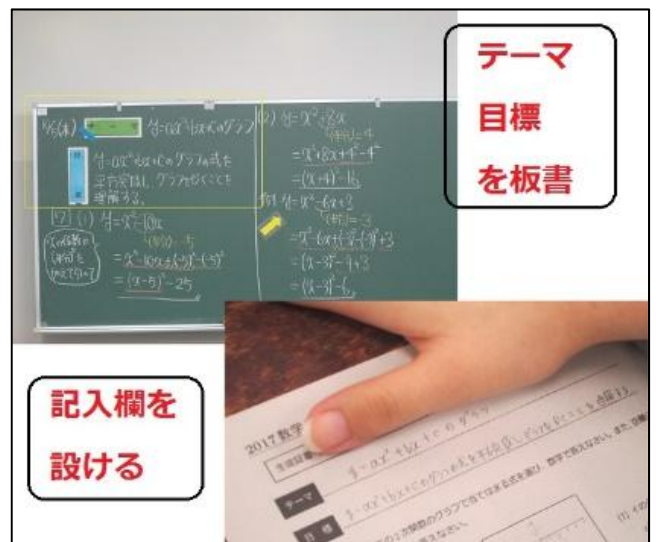
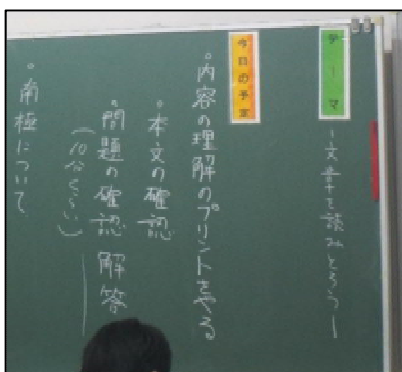
## 3. いつもの授業にちょっとした工夫とちょっとした配慮(授業編)

### ① 見通しの提示

〈授業サポートカードの利用〉⇒【視覚化・焦点化】



- 授業の流れや活動の手順を目に見える形で示す。  
→目標等の記入欄を設ける(プリントと板書の整合)





**主体的・対話的で深い学び**  
 タイマーを活用し、何をする時間か区切る。  
 各自で考える時間  
 ↓  
 話し合ったり、教え合う時間  
 ↓  
 発表する時間

<タイマーの活用>⇒【メリハリ】

<90分の区切り：集中力が持続する学習活動>

⇒  $30分 \times 3$   $15分 \times 6$   $5分 + 20分 \times 4 + 5分$  等

<1週間の区切り>⇒ 週1回の年次全体でのCom.T(SHRにあたるもの)

② **具体的に はっきりと 繰り返して ゆっくりと 簡潔に**

<発問・話し方の工夫>

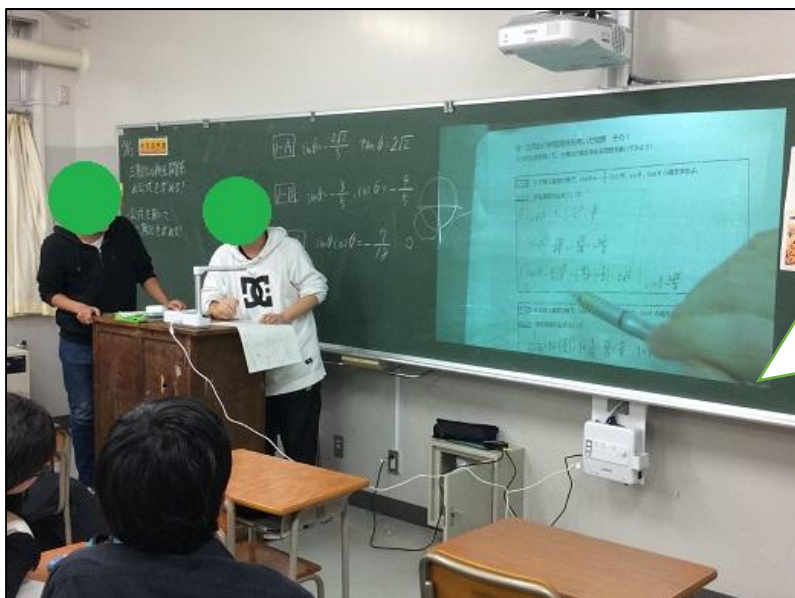
- 全体への指示はできるだけシンプルにする
- “聞く”、“書く”、“話す”の区別をつける
- 大切なポイントは繰り返す

<板書の工夫>

- 黒板の消し方の工夫、板書の量、書く位置、区切り線、行間
- ノート・プリントに写す時間
- 簡潔に整理された見やすい板書
- 字の大きさ(手のひらサイズ)

**主体的・対話的で深い学び**  
 グループ分けの工夫  
 自由 トランプ  
 あみだくじ じゃんけん

<授業の見える化>⇒【視覚化・焦点化・共有化】



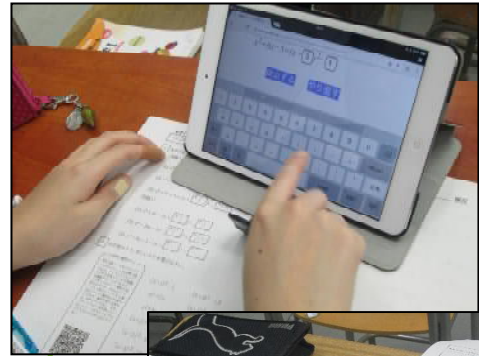
**主体的・対話的で深い学び**  
 書画カメラで解答を写し、発表  
 各自で考える時間  
 ↓  
 話し合ったり、教え合う時間  
 ↓  
 発表する時間  
 お互いの考えを共有

- 授業サポートカードの活用、書画カメラ、電子黒板、タブレット端末のカメラ機能



サポートカード  
と電子黒板の  
利活用の様子  
授業担当者より  
授業のねらいや  
流れが明確に分  
かるようになりました。

- 図示する、演じる等理解を促す工夫。  
＜授業の具体化＞⇒【定着・反復・リンク】
- NHK 高校講座等の視聴覚教材の利活用
- 配付プリントにQRコードを掲載する。
- スマホ・タブレットで調べる。



授業以外での学びきっかけづくり  
QRコードを掲載  
「アクセスするにはポケット通信料が別途かかります」を記載。

### ③ ルビ

かんじ ふじゆう せいと はいりよ  
漢字が不自由な生徒への配慮

### ④ 肯定的な表現

- 一人ひとりへの声掛け。生徒の努力や取組みをほめる場面を多く。
- 「いいね!」、「よくできたね!」等。

### ⑤ チョーク・スライドの文字の色

- 黒板でなるべく赤を使わない。
- 文字の色の使い分ける意味づけを。



## 4. いつもの授業にちょっとした工夫とちょっとした配慮(レポート・添削編)

### 分かりやすさ、読みやすさ

- 読みやすい字を心がける。
- 書き誤りには修正液(ホワイト)を使う。
- 励ましの言葉、指導・助言を入れて、生徒が取組みたくなる添削を心がける。
- ペン跡が生徒の解答と重ならないようにする。



## 表現

- ていねいでやわらかい表現→「～しましょう」「～してください」
- 一点はほめる。励ましの言葉を指導助言に入れる。

指導担当者のシールを貼り、  
顔が分かるようにする。

添削日時を入れて、  
ほめの一言を入れる。

「してください」  
「しましょう」  
など丁寧な表現を使う。

マーカーを活用し、訂正す  
べき問題を分かりやすく。

- ・ 訂正箇所を明確にする。
- ・ 参加内容を明確に指示する。
- ・ 生徒の気づきを大切に  
するアドバイスを  
用いる。

励ましの言葉を入れる。

説明の難しい問題には、  
NHK 高校講座の QR コードを添付

数 後期 第3回 報告課題

生徒から (この学習を通して感じたこと・質問・学習の状況を簡単に書く)

9/6 (再) とてよく出来ていすが訂正箇所が4箇所ありましたので、この部分に訂正して下さい。

1枚目の1 ... 教科書p.72の例1を参考にして下さい

2枚目の3 ... グラフを丁寧に書き、定義域に注意しましょう

4枚目の7 ... 2次不等式についてグラフを用いて、解くようにして下さい。もし分からなければ右のサイトを活用して下さい。

あと一息です! 頑張ってください!

サイトで確認 □2次関数のグラフと2次不等式 (1) □  
このサイトは無料で利用できますが、自分のスマートフォン等でアクセスする場合はパケット通信料が別途かかります。

観点別評価  
a : 関心・意欲・態度 b : 数学的な見方や考え方 c : 数学的な技能 d : 知識・理解 / ○重点項目 ◎最重要項目

## 5. 参考文献


「授業のちょっと×2 ハンドブック Ver1.0」(平成 29 年 4 月)

「授業のちょっと×2 ハンドブック Ver2.0 に向けて」(平成 29 年 7 月)

「高等学校における「通級による指導」実践事例集」(平成 29 年 3 月文科省)

「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」(平成 29 年 3 月青森県総合学校センター)



校内ポータルサイト 2 トップページの  をクリックすると、「授業のちょっと×2 ポータル」が開き、授業のノウハウ等を閲覧することができます。

定時制・通信制 授業のノウハウ共有しよう！  
授業のちょっと×2 研修会 協議内容

日時 4/21(金)13:00～14:00

<目的>

昨年度、生徒に対して行った「生徒による授業評価」の結果から、授業に対して見通しが持てない生徒が多数いることが分かった。これらの視点を踏まえ、すべての生徒にとってわかりやすい授業実践(授業のちょっと×2)に向けての、授業のノウハウを教科内、あるいは教科を超えて共有することを目的とする。

<用意するもの>

模造紙・付箋（色：黄色・緑・青）・ボールペン  
第2年次研究報告書 授業のちょっと×2 ハンドブック

<研究協議の進め方>

- ① 昨年度の授業評価の結果(第2年次研究報告書 p8～p11)を踏まえて、協議テーマを決める。  
( 例：見通しを持たせる授業の工夫 )
- ② 協議テーマについて  
気づいたこと・・・黄色の付箋  
課 題・・・緑の付箋  
工 夫・・・青の付箋  
にそれぞれ記入し、模造紙に張り付ける。
- ③ お互いの付箋紙を読みながら、同じ内容や関連がある内容ごとに付箋紙を集めていく。その際どのグループにも属さない付箋紙はそのままにしておく。
- ④ 集めた小グループごとにその内容をまとめた 見出しを付ける。
- ⑤ 見出しの意味を考えながら、他のグループと のつながりや関連を考え、大グループをつくる。
- ⑥ 各グループ間の関係を図にしてまとめる。
- ⑦ まとめと発表を行う。





## 理科

### <指示の出し方>

- 次に進む前にきちんと区切りを作ることが大切。
- 一時間の要点、流れを示す。
- 授業ごとに本日の予定(流れ)を板書の左側などに出しておく。
- 初めてのスクリーングで各回のスクリーングにおけるテーマ・内容を通知する。
- 時間的な区切りを明確にして指示を出す。

### <視覚・構造化>

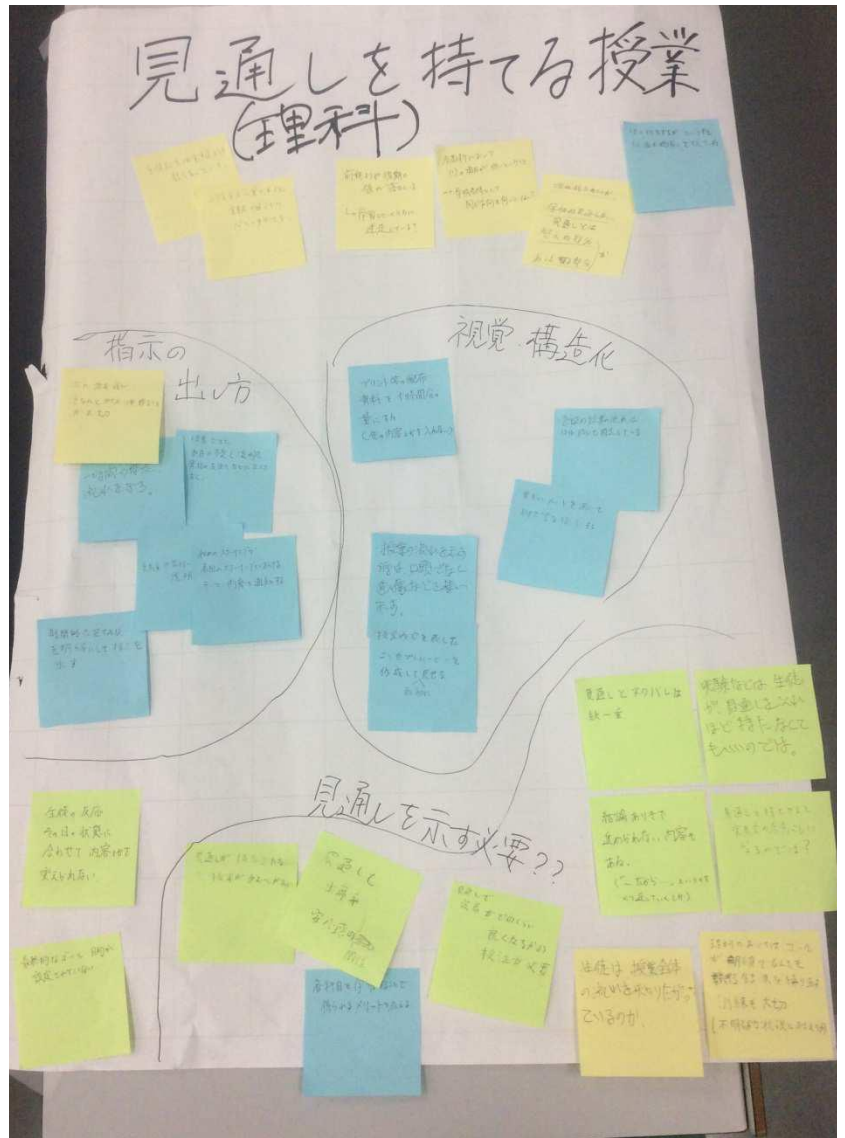
- プリント等の配布資料を1時間分の量にする。(先の内容とかを入れない)
- 授業の流れを示す時は、口頭ではなく画像などを使い示す。
- 授業内容を表したコンセプトムービーを作成して最初に見せる。
- 毎回の授業の流れはほぼ同じで固定している。
- 板書にカードを用いて目標等を提示する。

### <見通しを示す必要??>

- 見通しと出席率 安心感の関係
- 各科目を学習することで得られるメリットを伝える。
- 見通しで定着がどのくらい良くなるのかの検証が必要

### <その他>

- 生徒の反応その日の状態に合わせて内容を変えられない。
- 最終的なゴール・目的が設定されていない。
- 前期より後期の値が落ちている。→学習していくうちに迷走している?
- 各教科において(1)の項目が低いということ→学校全体として同じ方向を向いていない?



研修の様子 その1

## 保健体育

<テーマ>生徒が積極的に取り組むためには

<コミュニケーション>

- (通) 不登校の生徒が多いのでペアがつかれない
- コミュニケーションが取れない
- コミュニケーションがとれない生徒の対処法
- コミュニケーション不足
- 教員がホメる
- 教員と一緒にやる方が生徒のノリが良い
- コミュニケーションがとれていない(とれない)生徒が多い。自己中心的

<生徒の実態>

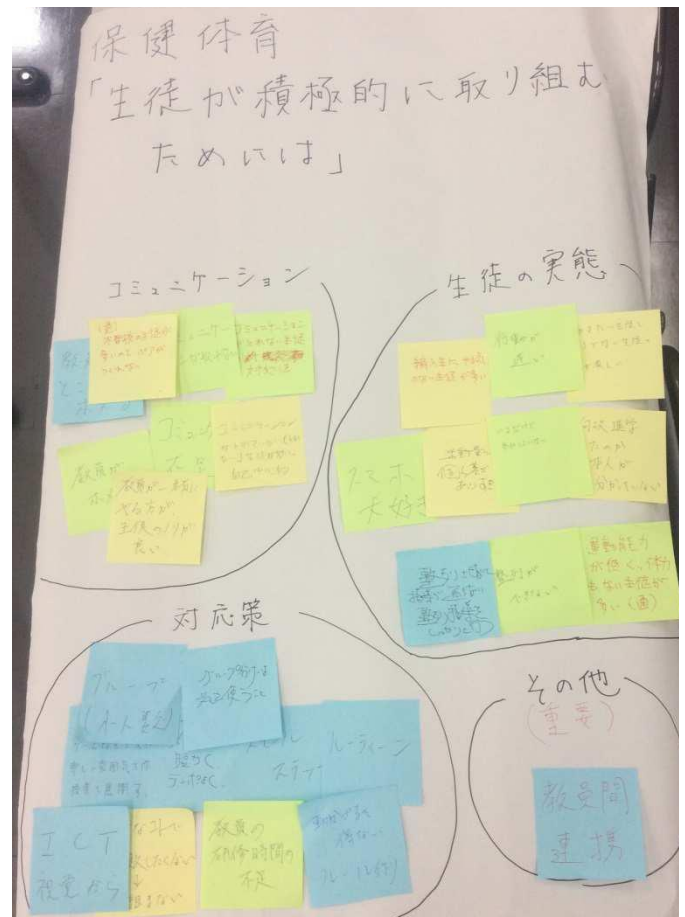
- 編入生にやる気のない生徒が多い
- 行動が遅い
- スマホ大好き
- 活動量に個人差がありすぎ
- いるだけで参加しない
- 何故、進学したのか本人が分かっていない
- 整列させないと指導が通らない。整列指導をしっかりと行う。
- 整列ができない。
- 運動能力が低く、体力もない生徒が多い(通)

<対応策>

- グループ(少人数)
- グループ分けは気を使うこと
- ゲームなどで楽しい雰囲気を作って授業を展開する。
- 短く、テンポよく。
- スモールステップ
- ルーティーン
- 動かざる得ないルール作り
- 教員の研修時間の不足
- ICT 視覚から

<その他>(重要)

- 教員間連携



研修の様子 その2



# 数学

## <テーマ>見通しを意識した授業展開 <学力差>

- 生徒によって学力の差が激しい
- 小学校の内容が定着していない生徒も
- 生徒の到達度に差が
- 前提となる事項を習っていない
- 公式をパワポで提示(確認しやすいように)
- 生徒の力量(わかってない)部分がわからない
- 何人かの生徒を先生にしてわかんなら生徒はわかっている生徒のところへ行って説明してもらう。
- 小中の復習を
- 『復習プリント〇×クイズ』⇒15分位かかえていっしょに考えて答えてもらう
- 授業を受けていなかったなど、小中の内容が定着していない生徒が多い
- レベルに合わせた課題を複数パターン用意する。
- 木曜日に個別対応する。

## <時間配分>

- 90分すわってられない
- 集中できない
- 90分間寝かせないように取り組ませる。
- スマホ依存
- 30分×3など時間配分を工夫する。
- 前回のおさらいに時間がかかる
- 用意した事の全部はやらない。1つでも確実に理解させればよいとする。
- 演習と解説の時間配分
- 最後に小テストと振り返りをさせる
- 『3分間シンキングタイム!』と言って『相談していいから問題をやってみて』と言いながらタイマーを使う。

## <やる気スイッチ>

- 授業についていけなくてやる気をなくす
- 複数の問題が組み合わされるとやる気をなくす
- 生徒同士の教えあう時間を設ける。
- 自分の目標を毎時間持たせる。
- 4人1組のグループを作って4人に別々の課題を与える。
- 個々に対応しないと伝わらない。
- 全体への説明では理解できない。
- できる問題であれば、取り組むことができる生徒が多い。
- 達成感を持たせる工夫
- 「できる」「わかる」経験を与える。
- 一話完結の授業プリントを作る。

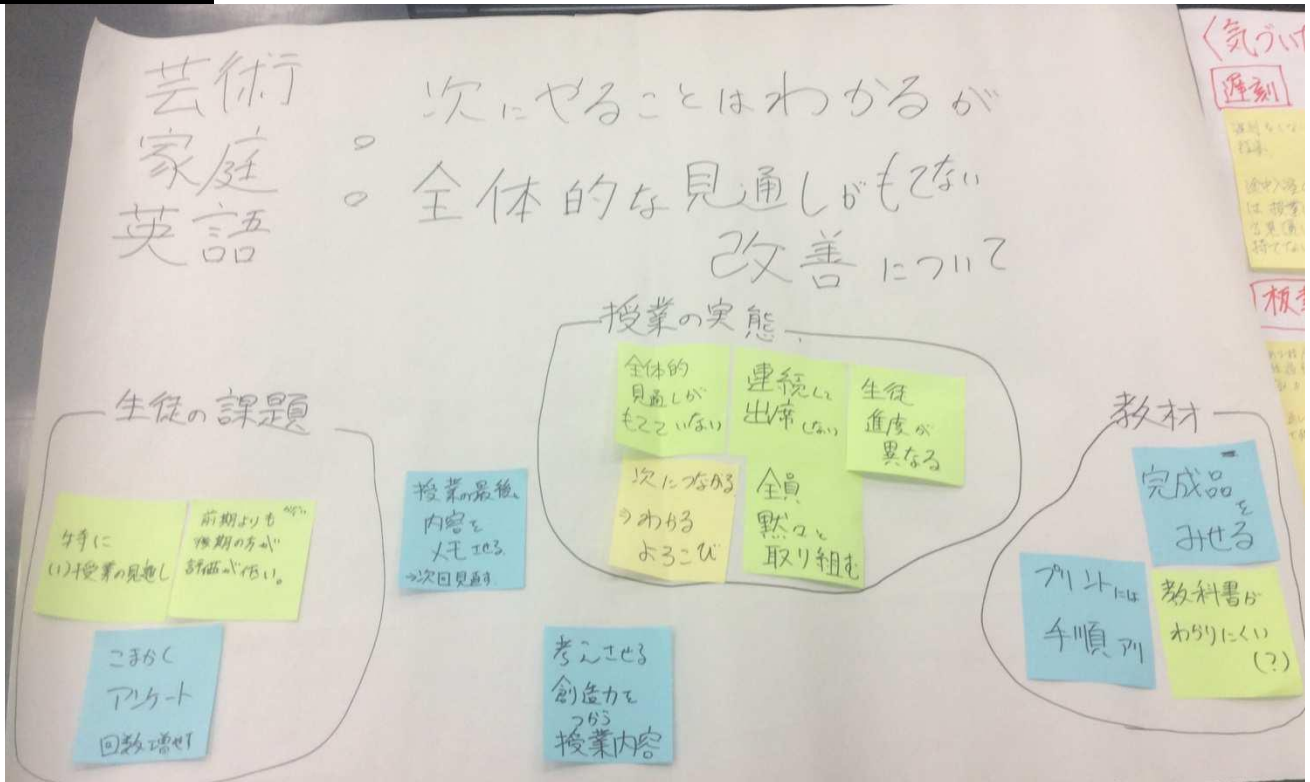


- 具体例を数学以外のものでも代用
- イラスト、写真、映像などを利用する。
- 興味を持たせる
- 「今 何をしているのか」がそもそもわかっていない
- 生徒は「次 何やるの?」と聞いてくる。
- 授業の流れをスライドで示す。

<ICT>

- ICTの有効的な活用方法
- 数学の各テーマで各自が作っている教材のデータを集めそれぞれが使えるようなフォルダを作っておく
- 耳で聞くより、目で見ただ方が理解できるタイプが多い。

英語・芸術・家庭



<テーマ>次にやることはわかるが全体的な見通しがもてない改善について

<生徒の課題>

- 特に(1)授業の見直し
- 前期よりも後期の方が評価が低い
- こまかくアンケート 回数を増やす

<授業の実態>

- 全体的 見通しがもてていない
- 連続して出席しない
- 生徒 進度が異なる
- 次につながる⇒わかるよろこび
- 全員 黙々と取り組む

<教材>

- 完成品を見せる
- プリントには手順あり
- 教科書がわかりにくい(?)

<その他>

授業の最後 内容をメモさせる⇒次回見直す  
考えさせる想像力をつかう授業内容



研修の様子 その3

## 社会

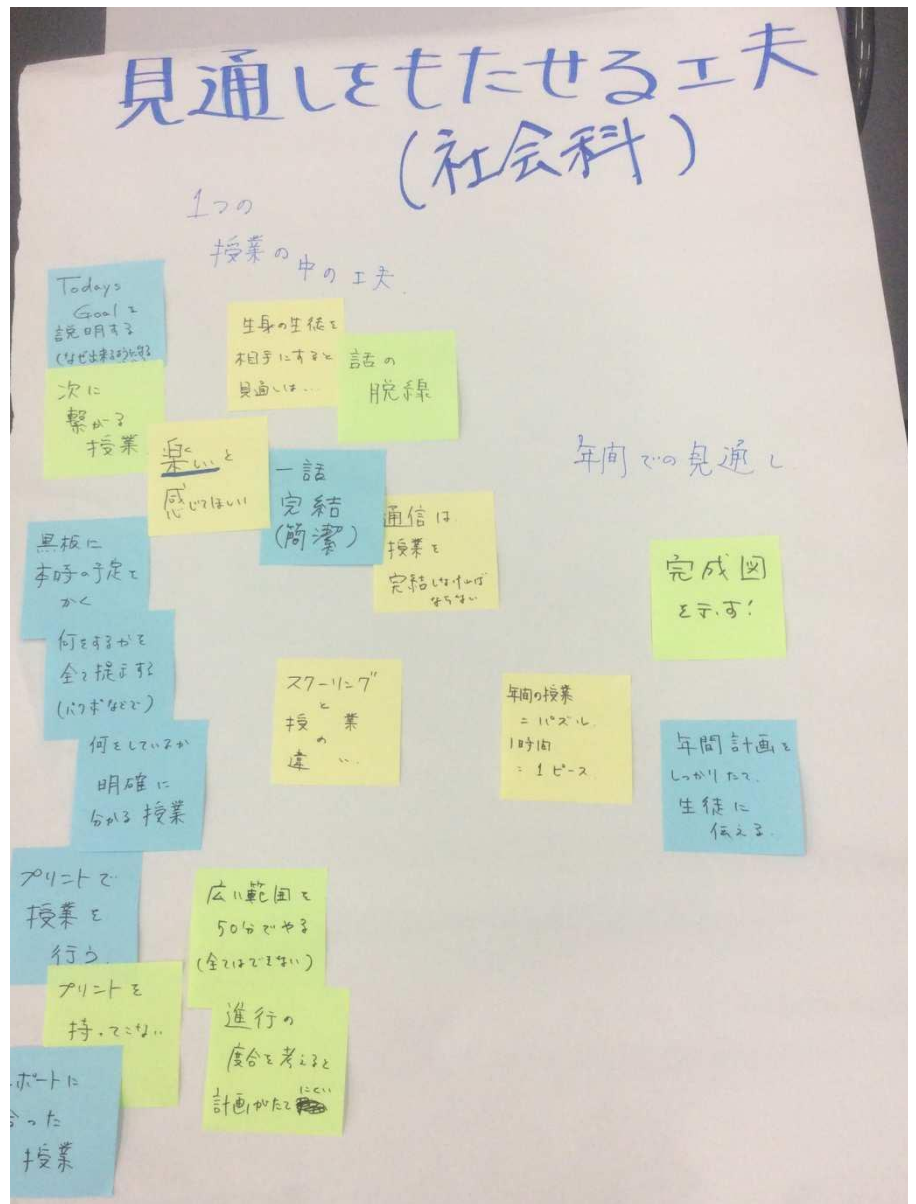
<テーマ>見通しを持たせる工夫

<1つの授業の中の工夫>

- Today's Goal を説明する。(なぜできるようになるか)
- 次に繋がる授業
- 楽しいと感じてほしい
- 生身の生徒を相手にすると見通しは・・・
- 話の脱線
- 一話完結(簡潔)
- 通信は授業を完結しなければならぬ
- 板書に本時の予定をかく
- 何をするかを全て提示する。(パワポなどで)
- 何をしているか明確にわかる授業
- プリントで授業を行う
- プリントを持ってこない
- レポートに合った授業
- 進行の度合を考えると計画がたてにくい
- 広い範囲を 50 分でやる(全てはできない)
- スクーリングと授業の違い

<年間での見通し>

- 完成図を示す!
- 年間の授業＝パズル 1 時間＝1 ピース
- 年間計画をしっかりと生徒に伝える。






1

## 校内支援体制の構築と外部連携 ～知る・深める・支える～


神奈川県立厚木清南高等学校  
多様な学習を支援する高等学校の推進事業  
定時制・通信制課程における支援相談体制の構築  
-外部機関とのネットワークづくりや重層的支援の充実を通して-



2

## 本日の流れ

- 本校の概要
- 文部科学省事業
  - 生徒の実態把握
  - 多様な学習を支援
  - 教職員の知識・理解を深めるために
- 知る・深める・支える→続ける




3

## 厚木清南高校の概要

- 単位制による普通科：
  - 厚木南高校を単独改編、平成17年度開校
  - 全日制・定時制の6時間(90分×6)の時間帯に 通信制の学びのシステムを加えた、全国で唯一の3課程一体の 単位制普通科高校、フレキシブルスクール

※フレキシブルスクールとは、柔軟な学びのカたち  
課程間併修、学校外活動等による単位認定




4

**神奈川県立 厚木清南高等学校**  
フレキシブルスクール  
あたらしい学びのカたち

全日制・定時制の6時間(90分×6)の時間帯に通信制の学びのシステムを加えた  
全国で唯一の3課程一体の単位制普通科高校、フレキシブルスクールです。

学びの仕組み

全 日 制	全日制の時間帯						学 校 外 活 動
	1限 9:00 ~10:30	2限 10:45 ~12:15	屋 休 み Com.T	3限 13:15 ~14:45	4限 15:00 ~16:30	夕 休 み Com.T	
定 時 制	ライフスタイルに合わせて 「自分だけの時間帯」 を作成			定時制の時間帯 授業			課 程 間 併 修
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 豊富な必修科目</li> <li>• 充実した自由選択科目</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本から 精選的な内容まで 確かな学力の育成</li> <li>• 90分授業</li> <li>• 習熟度別授業(数学・英語)</li> <li>• 少人数授業</li> </ul>			
通 信 制	レポート	+	スクーリング 日曜日 火曜日	+	テスト	全・定・通 他課程の科目を 受講可能 (単位あり)	



5


## 厚木清南高校 定時制・通信制の生徒

- 多様な生徒が在籍(不登校経験者・発達障害・外国につながる生徒等・・・)
- この事業開始前も、このような生徒に対して、生徒相談、ケース会議等について学校生活支援グループの中に位置付け、組織的な対応を行ってきた。

↓

この対応をさらに発展・向上させるため、本事業の取組をスタート

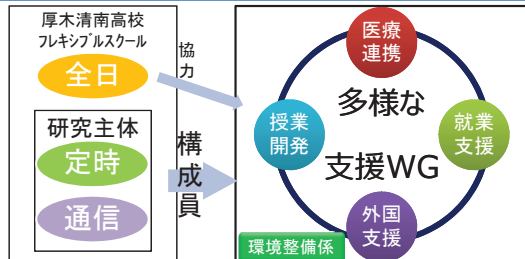
※本調査研究の要件：「二つの課程を備えた学校」




6

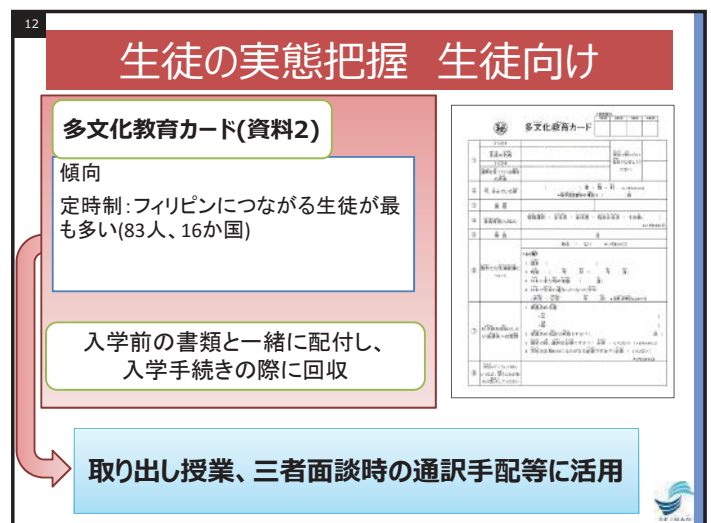
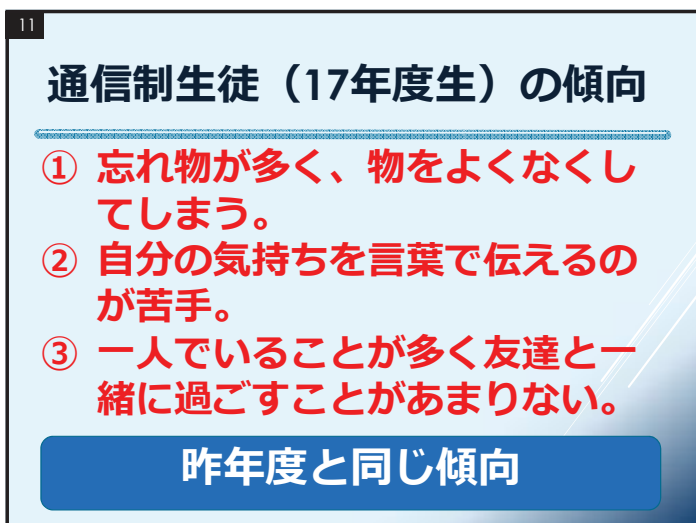
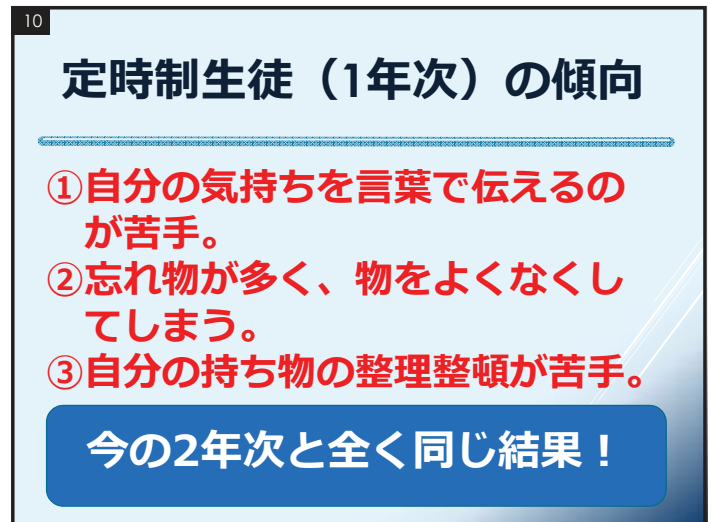
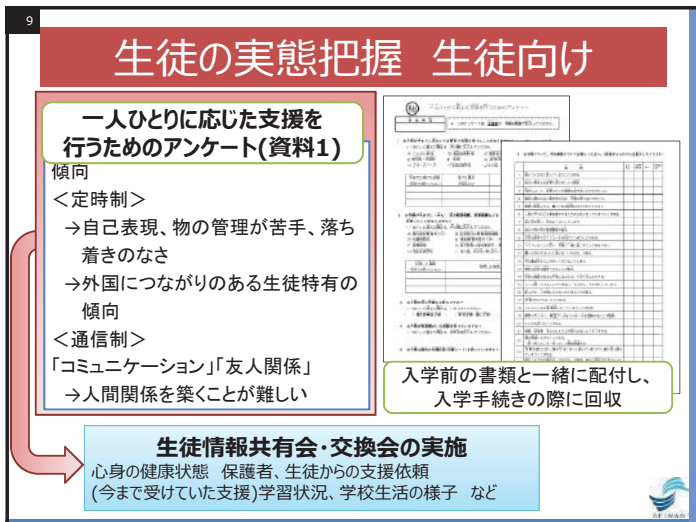
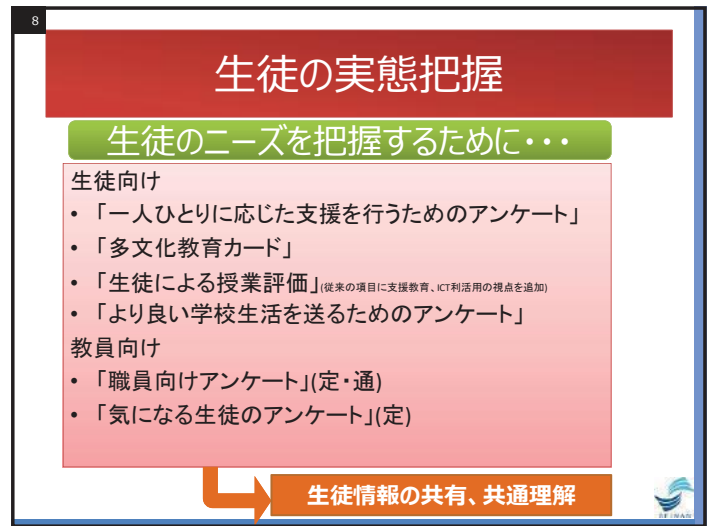
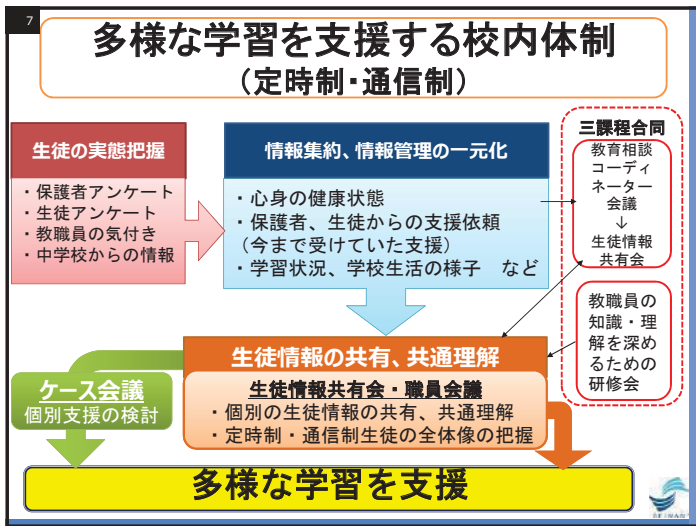
## 文部科学省事業 調査研究のねらい

発達障害等の生徒や外国につながる生徒等、きめ細やかな支援を必要とする生徒に対して、支援を提供する体制を構築し、その効果を検証する。校内においては、定時制・通信制だけでなく、全日制の協力も得ながら、学校全体として取り組んでいく。



文部科学省委託事業 調査研究校 平成27(2015)年度～平成29(2017)年度 3年間





13

## 生徒の実態把握 生徒向け

**生徒による授業評価 (資料3)**

- 年2回実施
- 従来の授業評価に支援教育(見通し・授業環境)、ICTの観点を追加

**より良い学校生活を送るためのアンケート(資料4)**

- 6月に実施
- 生徒一人ひとりの学校生活、学習面の課題の把握
- 定・通生徒の比較、生徒のニーズの把握

- 「見通し」を意識した授業展開
- 学習上の困難さを抱えている生徒への対応
- 自分の意見や考えを表現することが苦手
- ICTの利活用は「分かる授業」の実践に繋がっている。

14

## 生徒の実態把握 教員向け

**教員向けアンケート(資料5)**

- 6月に実施(年1回)
- 平成24年度佐賀県教育センタープロジェクト研究報告「高等学校における特別支援教育の推進に向けて」を参考にアンケートを作成
- 生徒の学習への困り感の把握

- 教職員が日々感じていることの共有
- 発達障害の特性のありそうな生徒を8割の教職員が認識

→授業規律の確保

→ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりを推進

15

## 生徒の実態把握 教員向け

**定時制 気になる生徒のアンケート(資料6)**

- 文部科学省のチェックリストを参考
- 夏休み前に生徒理解と情報共有を目的(非常勤講師を含む全教職員に実施)
- アンケート結果は、生徒の顔写真をスライドで確認しながら全教職員で情報共有、入学時の情報と比較し確認
- 教職員は、授業中の様子から「気になる生徒」に気付いていることが多い。
- 高校入学まで支援を受けていない生徒の中にも「気になる生徒」は多い。
- 生徒の気になる点を言語化することは、教職員が日々何となく感じていることを意識化する機会になり、日々の指導・支援の参考となる。

16

## 気になる生徒の集計結果

定時制 気になる生徒の情報共有会スライドより

コメント数

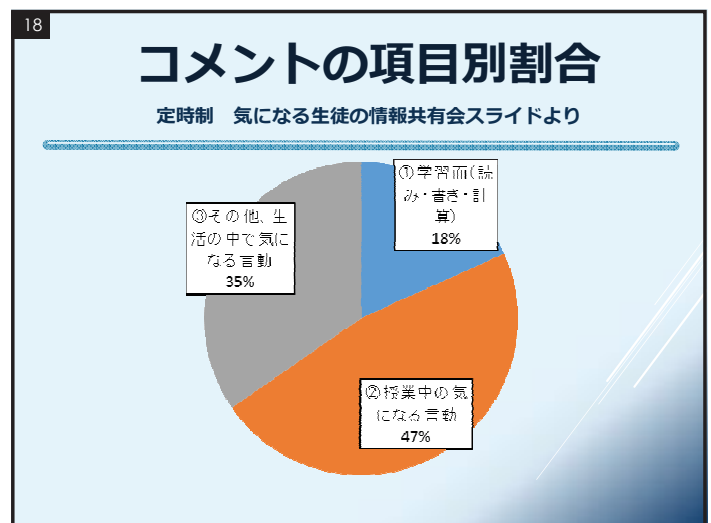
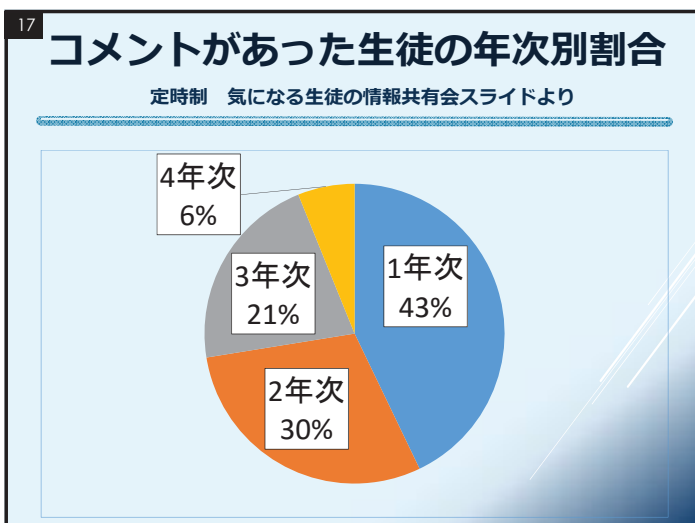
172件

(昨年123件)

実生徒数

100人

(昨年81人)





19

## 多様な学習を支援

**校内体制の構築による支援**

1. 分かりやすい授業のための研究、推進
2. 多様なニーズに応える学習支援
3. 環境整備の工夫
4. SC、SSWによる相談体制の確立

**外部機関と連携して行う支援**

1. 医療との連携支援
2. 就労に向けての支援
3. 外国につながるのある生徒の支援
4. 学習支援
5. その他外部機関との連携支援

連携・協力

生徒の変化や支援による効果を評価し、必要な修正を行う

20

## 校内体制の構築による支援 分かりやすい授業のための研究、推進

### 授業のユニバーサルデザイン

**授業のちょっと×2**

## いつもの授業に ちょっとの工夫と ちょっとの配慮

**授業のちょっと×2** Ver1.0201509

いつもの授業にちょっとの工夫とちょっとの配慮  
 チョーク・スライドの文字の色 具体的に 揃えたりと  
 繰り返しで ゆっくりと話す 簡単に  
 見通しの提示 ルビ 肯定的な表現

神奈川県立厚木高等学校 定例制 遠征制

21

## 授業のちょっと×2ができるまで・・・

**多様な生徒が在籍  
学習における困り感  
の解消が課題**

いつもやってる授業に  
ちょっと工夫して、  
ちょっと配慮する

**授業レポート等の  
ユニバーサルデザイン化**

ユニバーサルデザイン  
って何よ!?  
難しい・・・

清南ならどうできるか？

**ユニバーサルデザインの視点とは難しく考えず  
いつもの授業にちょっとの工夫とちょっとの配慮という視点**

**深化**

授業のちょっと×2ハンドブック  
授業のちょっと×2ポータル  
授業サポートカード

ノウハウを共有し、  
授業者**みんな**  
が取組める体制づくり

22

## 校内体制の構築による支援

### 分かりやすい授業のための研究、推進 ICT利活用

この事業以外で整備された機器等

- プロジェクター (移動式(7台)、天吊り(15教室))
- Windowsタブレット (県リース: 9台、定: 2台)
- iPad mini (全: 2台、定: 17台)
- Wifi環境 (廊下天井裏に数台設置)

この事業で整備された機器

- iPad mini 12台
- 電子黒板(4教室)

+全日制の協力を得て、すべての教室への遮光カーテンの設置

23

## 校内体制の構築による支援

### 分かりやすい授業のための研究、推進 ICT利活用 視覚に訴える映像教材等の利活用

授業での利活用と授業以外の場での  
学習内容への興味・関心を高めるきっかけづくり

映像を見ながらキーワードを答えしていくワークシート(資料7)を作成し、映像教材と合わせて授業の中で利活用し、学習内容の定着を図った。

映像教材を利活用することは生徒にとってもイメージしやすい。

タブレット端末や生徒の身近なスマートフォンなどで閲覧できる映像教材(「NHK高校講座」などのQRコード一覧(資料8)を配付

「試験前に確認することができた」と授業評価で答える生徒もおり、少なからず生徒にとってプラスに働いている。

24

## 校内体制の構築による支援

分かりやすい授業のための研究、推進 授業のちょっと×2ハンドブック(資料10)

今までの取組んできた授業・レポート・ICT・校内環境について、ユニバーサルデザインや「ちょっと×2」の工夫やノウハウ等を集約し、教職員全体に呼びかけるハンドブックとしてまとめた。

25

## 校内体制の構築による支援

分かりやすい授業のための研究、推進 授業のちよっと×2ハンドブック

- ヒントになることがあり便利。
- 赴任後の不安を払拭することができ、3 か月経った今も指針としている。

Ver2.0に向けての検討事項

- Ver1.0 の具体例の紹介
  - 授業のちよっと×2 の視点を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」に向けて
- 次年度、4月当初に配布できることを目標

職員アンケートからは、  
約9割の職員が「参考に  
なる」と回答



26

## 校内体制の構築による支援

分かりやすい授業のための研究、推進 授業のちよっと×2ポータル

ノウハウを共有し、授業者みんなが取り組める体制づくり

校内ポータルサイト上に設置

教材共有ページ

アイデア共有掲示板

コンテンツリンク

ICT利活用例



27

## 校内体制の構築による支援 多様なニーズに応える学習支援

- 外国につながる生徒への、個別対応授業  
→「個別支援授業」担当者会議の実施
- 長期休業中の学習支援の実施  
→「多文化補習」、「日本語補習」
- 学習の困り感を抱えた生徒への個別支援プログラムの実施  
→学校設定科目「たのしい数学」(定時制)  
→就労に向けて：学校設定科目「キャリアデザイン」(定時制)  
→学習支援員の活用(通信制)



28

## 校内体制の構築による支援 多様なニーズに応える学習支援 外国につながる生徒への個別対応授業

多くの科目が、教科学習内容以前の日本語指導に四苦八苦している。  
学習指導要領に沿った指導をどのようにしていけばよいのか？  
→「取り出し授業担当者情報交換会」の実施



取り出し授業受講生徒の情報共有  
「多文化補習」、「日本語補習」の時間の設定  
「取り出し授業参観週間」の実施



29

## 校内体制の構築による支援 多様なニーズに応える学習支援 学校設定科目「たのしい数学」(定時制)

- 半期科目1単位  
前期は入学者選抜の資料から、後期は数学Iの授業の様子等から、履修を勧める。
- 授業形態と内容  
TT、90分授業の使い方の工夫(30分×3)、タブレット端末の利活用
- 成果  
「数学I」の追い着けない生徒が「たのしい数学」を並行履修することで理解が進み、意欲的に授業に参加することができた。  
基礎的・基本的な学習内容の反復により、数学に対する苦手意識が軽減したと見られる。  
→次年度以降、全日制・通信制の生徒も履修できる体制を整える。



30

## 校内体制の構築による支援 就労に向けての支援 学校設定科目「キャリアデザイン」(定時制)

- 半期科目1単位  
1年次生全員
- 授業形態と内容  
TTで実施、PC教室で実施  
国語、数学、英語の基礎的・基本的内容  
キャリア分野



31

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫

- 棟のシンボルカラー、階の表し方の検討

棟	N棟 北	E棟 東	S棟 南	W棟 西
色	青	オレンジ	赤	黄色
R, G, B	0, 65, 255	255, 153, 0	255, 40, 0	250, 245, 0

1階	2階	3階	4階
— (1本線)	= (2本線)	≡ (3本線)	≡≡ (4本線)

- 教科のシンボルカラーの検討

教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	家庭	英語	情報
色	ピンク	灰色	灰色	黄	緑	空色	赤	オレンジ	紫	青
R,G,B	255,153,180	188,188,188	188,188,188	255,240,0	53,161,107	182,204,205	255,40,0	255,153,0	154,8,121	0,85,250



32

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫

校内環境整備 ～「分かりやすい」環境整備～  
校舎各棟を色分け。壁や柱をシンボルカラーで塗装



33

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫

レポート提出ポスト(教科で色分け)



図書室 (わかりやすい表示)

「蔵書検索」を  
「本をさがす」に



34

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫

授業サポートカードをすべての教室に整備



見通しの持てる授業展開ができる状況づくり



35

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫

授業サポートカードをすべての教室に整備

職員アンケートより

- カードに色がついているので、やはり目立ちますよね。その授業でやることが一目瞭然です。矢印もどこを今やっているかを視覚的に表すことができていると思います。
- 板書時間の短縮板書にかかる時間の短縮
- 「今日の予定」を提示しながら授業を進行することで、現在の進捗を示しやすい。
- 生徒に対して見通しをつけさせることができるのと同時に、教員がテーマや目的を意識させることを再確認する意味で、有効かと思えます。
- 今日の予定を示すことで「次に何をやるか」が明確になり、見通しの持てる授業展開ができる。

→今後も、効果的な活用を模索



36

## 校内体制の構築による支援 環境整備の工夫



遮光カーテンの設置により、鮮明なスライド投影






37

## 校内体制の構築による支援 SC,SSWによる相談体制の確立

- 保護者対象「SC講演会及び保護者懇談会」：本校スクールカウンセラーによる「アサーション」をテーマにした講演会を実施。その後、保護者・教職員を交えた懇談会を実施。



◇◇「困った子」から「困っている子」への視点の転換が、教職員の気持ちや生徒への抱負・支援にいかすことにつながる◇◇

「困った子ども」  
「子どもを責める」  
「なぜできない」  
「やる気がない」

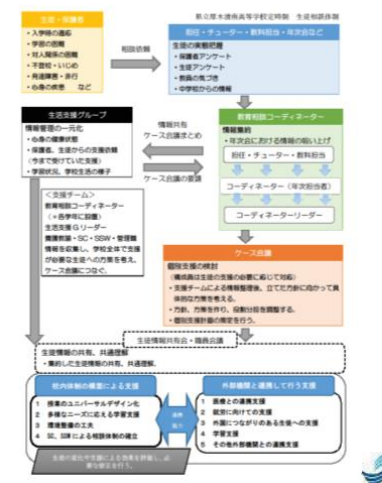
→

「困っている子ども」  
「環境を整える」  
「どうやったらできるか」  
「やり方がわからない」

職員アンケートからは、この事業を通じて約8割の教職員が「困った子」から「困っている子」への視点の転換ができたと感じられると回答

38

## 定時制 相談体制




外部機関との連携による支援  
1. 職業のキャリアデザイン中心  
2. 多様なニーズに応える学習支援  
3. 職業実践力  
4. 試、誤りによる経験制の確立

外部機関と連携して行う支援  
1. 職業への就職支援  
2. 就業に向けての支援  
3. 職業につながらない生徒への支援  
4. 学習支援  
5. その他関係機関との連携支援

39

## 通信制 相談体制



外部機関 ← カウンセリング (SC・SSW) → ケース会議  
外部連携 ↑ 教育相談依頼 ↓ 困りの分析 対応検討

情報共有会 (管理職・SC・SSW・担任・教育相談Co)

困っている生徒 保護者 ↔ 職員・担任  
↑ 困りの分析 専門的助言 ↓ 新たな情報 経過報告  
↑ 情報共有 対応伝達 ↓ 情報共有 対応伝達

専門医による相談会 ↔ 生徒情報交換会  
↑ 情報集約 ↓

生徒カード・学校の様子  
一人ひとりに応じた支援を行うためのアンケート

40


## 外部機関と連携して行う支援 医療との連携支援

- 思春期の発達障害を診察している精神科医に來校していただき、生徒・保護者の相談に対応していただく「専門医による相談会」は、昨年度5回実施、19組が参加。新たに医療につながった生徒・家庭もあり、またすでに医療につながっている家庭にはセカンドオピニオンの提示機会を設けることができた。

41

## 『専門医による相談会』への 相談の勧め方(資料9)

- 本校独自の「支援マニュアル」の第一弾として作成
- 詳細かつ具体的な内容



職員アンケートからは、この事業を通じて約8割の教職員が相談体制の整備が進んだと思うと回答

42

## 外部機関と連携して行う支援 就労に向けての支援

休<sup>ろ</sup>ス<sup>テ</sup>何でも相談室



- 就労支援に実績のある他校や訓練施設等を訪問して情報収集を行い、校内支援体制の構築に努めた。
- 生徒及び保護者を対象に、特例子会社・訓練校の見学や体験等を実施した。
- ハローワーク、地域若者サポートステーション、就労移行支援事業所、訓練施設、企業(特例子会社)等との連携によるキャリア支援
- 就労支援員(サポートティーチャー)の配置

## カフェブランシュ



## 職業技術校との連携



## 「サポートティーチャー」の雇用

「就職相談室」を開設



## 外部機関と連携して行う支援 外国につながる生徒への支援

- 保護者への通訳手配、外部機関による学習支援体制の推進

合格者説明会での通訳支援



## 外部機関と連携して行う支援 学習支援、その他外部機関との連携支援

- 学習支援員の導入や細やかな学習支援通信制「レポート完成講座」
- 県立総合教育センター、特別支援学校、中学校等

学習支援員による学習支援



## 教職員の知識・理解を深めるために 校内研修会・講演会

- ICT利活用研修会
- 「授業のちよっと×2」を深化させるための研修会
- 授業のノウハウ共有しよう！授業のちよっと×2研修会




49


## 教職員の知識・理解を深めるために 校内研修会・講演会

講演会の主な演題

- 外国につながるのある児童・生徒とのかかわり
- 発達障害のある生徒の理解と対応について
- 配慮を必要とする生徒の職業自立に向けた支援について
- 移行就労支援 取組事例 等、校内研修を実施



職員アンケートからは、この事業を通じて約8割の教職員が研修会等を通じて発達障害等の知識・理解を深めることができたと回答




50

## 教職員の知識・理解を深めるために 外部視察

先進的な取組を行っている高校や特別支援学校を中心に県内・県外を含め延べ27箇所の視察を行った。

### 県外視察先一覧

2015年度	2016年度	2017年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>富山県立志貴野高等学校</li> <li>富山大学人間発達科学部特別支援学校</li> <li>富山大学学生支援センター</li> <li>東京都立足立東高等学校</li> <li>静岡大学教育学部附属特別支援学校</li> <li>静岡県立静岡中央高等学校定時制・通信制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県立幕張総合高等学校</li> <li>千葉県立船橋高等学校 定時制</li> <li>兵庫県立西宮香風高等学校</li> <li>兵庫県立阪神昆陽高等学校</li> <li>京都府立朱雀高等学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県立袖ヶ浦高等学校</li> <li>千葉県立生浜高等学校</li> </ul>



51



## 教職員の知識・理解を深めるために 外部視察

他校訪問(視察)では、思いがけない知識や工夫を得ることができ、刺激をうけることができた。

「清南ならどうできるか?」という視点を踏まえながら、視察を実施。

高校での「指導」と「支援」の狭間の中で効果的な取組を追求していくことが課題となった。

「授業のちょっと×2」、「授業サポートカード」、「授業のちょっと×2ハンドブック」が生まれたのも、外部視察の結果である。

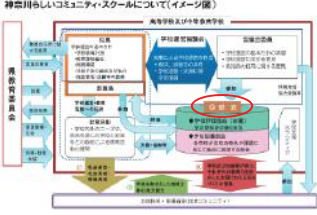



52


## 知る・深める・支える→続ける ～持続可能な息の長い取組の推進～

今年度にこの研究事業は終了

多様な教育課題への対応  
事業成果を継続して続ける体制づくりが課題




次年度以降、コミュニティスクールの「部会」にこの「多様な学習支援」を位置付け、定時制・通信制だけでなく全日制も含めた3課程一体フレキシブルスクール全体としての取組を推進することを検討中



53

ご清聴ありがとうございました。





平成 29 年度

文部科学省「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」研究発表協議会

【目 的】

平成 27 年度～平成 29 年度の 3 年間、横浜修悠館高等学校と厚木清南高等学校の 2 校が実施してきた文部科学省の「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の調査研究の最終年度に当たり、3 年間のまとめとして研究成果を発表する場を設け、県内の学校に発信し、協議を行うことで、各校の教育活動の活性化を図る。

【日 時】 平成 29 年 11 月 15 日（水）14：00～17：00

【場 所】 厚木清南高等学校 視聴覚室

【対 象】 インクルーシブパイロット校（茅ヶ崎・足柄・厚木西）  
クリエイティブスクール

（大井・大和東・田奈・釜利谷・横須賀明光+大楠）  
確かな学力育成推進校（菅・永谷・寒川・平塚湘風・津久井）  
通級指導導入予定校（保土ヶ谷・生田東・綾瀬西）の教職員  
希望する全日制・定時制・通信制の教職員

【参加人数】 発表者を含め 75 名

研究発表①「校内支援体制の構成と外部連携 ～知る、深める、支える～」

厚木清南高等学校 定時制 小林 直志 教諭

厚木清南高等学校 通信制 峯浦 健治 教諭

生徒の実態把握について

○アンケートの種類

・生徒向け

「一人ひとりに応じた支援を行うためのアンケート」

「多文化教育カード」

「生徒による授業評価」（従来の項目に支援教育、ICT 利活用の視点を追加）

「より良い学校生活を送るためのアンケート」

・教員向け

「教職員向けアンケート」（定・通）

「気になる生徒のアンケート」（定）

○アンケートから見えてきたこと

・定時制の生徒の傾向…自分の気持ちを伝えることが苦手、ものをすぐになくしてしまう、自分の持ち物の整理整頓が苦手などの傾向が見られる。

・通信制の生徒の傾向…定時制生徒と同様の傾向が見られるが、ひとりであることが多く友達と一緒に過ごすことが苦手という傾向が定時制よりも多く見られる。

## ○アンケートの成果

- ・入学時点で生徒の実態把握ができるため、4月当初に支援を必要としている生徒の情報を共有することができた。特に外国につながるのある生徒の情報共有は三者面談時の通訳にも役立った。
- ・アンケートを継続的に行うことによって、教職員のコメントが増える等の変化が起きた。教職員に対して生徒の実態把握を促すことができた。
- ・顔写真を見ながら、生徒情報を全教職員で共有している。そのことによって、教職員の共通理解が促進できた。

## 校内体制の構築による支援について

### ○授業のユニバーサルデザイン化

- ・本校のユニバーサルデザイン=いつもの授業に「ちょっとした工夫とちょっとした配慮」。

#### <具体例>・授業サポートカードによる見通しの持てる授業の展開。

- ・電子黒板、遮光カーテンの配備による ICT 機器の活用の推進。
- ・NHK 高校講座などの映像教材を見ながら、埋めていくことができるプリントの作成。  
(生徒の自主学习用教材、QR コードを活用しリンクに飛べるようにする)
- ・ユニバーサルデザインの工夫などをまとめた「ちょっとちょっとハンドブック」の作成。
- ・90 分の授業を 30 分×3 の展開と考えたメリハリのある授業展開等の工夫を加えた。

### ○学校設定科目

- ・定時制 「たのしい数学」(iPad を使った学び直し)、「キャリアデザイン」(生徒一人ひとりの特性を生かしたキャリア形成や就労に向けての取組)
- ・通信制 「レポート完成講座」
- ・外国につながるのある生徒の「個別支援授業」担当者の情報交換会や夏季休業中の日本語の補講

### ○個別支援体制

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる保護者向け講演会の実施。  
(困った子から困っている子への視点の変換を意識)
- ・専門医による相談会を実施し、実際に医療につながった生徒もいた。

### ○就労支援

- ・若者サポートステーションと連携し、月に1回の相談室を設定。
- ・通信制の生徒が気楽に話し、相談できる場として「カフェブランシェ」を開催。
- ・かなテクカレッジ(西部職業技術校)との連携事業。

## 研究発表②「多様な学習を支援する高等学校の推進事業

～外部機関とのネットワークづくりや重層的支援の充実を通して～

横浜修悠館高等学校 小俣 弘子 教諭

- レポートのユニバーサルデザイン化について
- 修悠館スタンダードの構成について
- 特別支援学校との連携について
- キャリア活動を支援する活動K J Cについて

## 研究発表③「横浜修悠館の外国につながるの生徒にかかわる取組」

横浜修悠館高等学校 井上 恭宏 教諭

- グループへの位置付け、在籍把握、通訳派遣事業や多文化教育コーディネーター・サポーター制度を活用しながらの架け橋教室について
- 多文化コーディネーター・サポーター制度、ME・ネット及び教育委員会との共同事業。
- キャリア活動のJという学校設定科目について
- 外国につながるの生徒への支援の担当者が担任するクラスに、入学時に課題のより重いと見られる生徒を集中させるクラス編成により、課題の拡散・後追い対応を防ぐ工夫について

## 研究発表④「『高等学校における通級による指導』制度化のに向けた通信制高校での実践」

～自立と社会参加を目指す学校設定科目「キャリア活動Ⅰ・Ⅱ」～

横浜修悠館高等学校 山田 佳典 教諭

- キャリア活動のKという学校設定科目。(いろいろな仕事、働く社会人としての基礎力、コミュニケーション、自己理解などをテーマとしたキャリア活動Ⅰ、Ⅱ)について
  - ・実習を企業、福祉施設、特別支援学校等と連携して行った。実施前後にソーシャルスキルトレーニングを含む事前・事後学習を行い、校外で職業体験に向けて準備をしている。特別支援学校の作業室を利用したり、特別養護老人ホームや企業の特例子会社に行き、実践を重ねている。



## 研究協議

### ○生徒情報の収集について

- ・収集した生徒情報の扱いについて外部機関への情報提供に係る具体的な諸問題とは何か。  
→個人情報保護条例に抵触しないよう線引きをしなければならない。(横浜修悠館)

### ○授業のユニバーサルデザイン化について

- ・90分授業のメリットやデメリットと、30分×3のように分けてあると話があったがどのように取り組まれているのか。  
→「たのしい数学」を例に挙げると、初めは100マス計算を行い、次の30分で学び直しを行って、最後の30分でNHK高校講座を観ながら行ったりしている。メリット・デメリットと明確にするのは難しいが、切り替えをして区切りを持たせることでメリハリがついていく。(厚木清南)

### ○生徒へのアプローチについて



- ・用意した支援を生徒にガイダンスするのは非常に大変で、生徒が自分に必要なものを選び取るとは困難だと思う。いい方法があれば教えていただけたらありがたい。  
→修悠館の場合は、生徒が自分で選んで取り組むという形ではなく、先生と一緒に手を引っ張ってあげて紹介する。生徒にすべて見せて選ばせるという形ではない。(横浜修悠館)  
→紹介ではなく連れて行かないと難しい。昨年度、定時制において特別指導を受けた生徒を専門医につなげうまくつながったケースが少なからずあった。(厚木清南)

### ○情報提供について





- ・修悠館スタンダードや「ちょっとちょっとハンドブック」のように、すぐに応用できて、授業改善のベースになる基礎資料をHPから閲覧できるようにしてほしい。また、アンケートの資料などもHPに載せてほしい。
- ・今回の発表資料(スライド)を閲覧可能にし、研究成果を各校に広めていってほしい。

## 201710多様な学習支援\_職員向けアンケート集計結果 全体










### 1 課程

項目	人数	比率
未選択	0	(0%)
定時制	31	 (67%)
通信制	15	 (32%)


### 2 在職期間




項目	人数	比率
未選択	0	(0%)
1年以内	11	 (23%)
2年以内	9	 (19%)
3年以内	4	 (8%)
3年以上	22	 (47%)

### 3 教科





項目	人数	比率
未選択	1	 (2%)
国語	7	 (15%)
社会	8	 (17%)
数学	8	 (17%)
理科	6	 (13%)
保健体育	7	 (15%)
芸術	1	 (2%)
家庭	1	 (2%)
英語	7	 (15%)
その他	0	(0%)

4 アンケートから生徒の傾向を把握することや生徒情報共有会を行うことは生徒の指導・支援に参考になったか。





項目	人数	比率
1 参考になった	27	 (60%)

2 少し参考になった	15	 (33%)
3 変化なし	2	 (4%)
4 わからない	1	 (2%)





5 事業を通じて、教職員は「困った子」から「困っている子」への視点の転換ができたと感じられているか。

項目	人数	比率
1 感じられている	17	 (36%)
2 少し感じられている	20	 (43%)
3 変化なし	5	 (10%)
4 わからない	4	 (8%)

6 相談体制の整備が進んだと思うか。

項目	人数	比率
1 思う	18	 (39%)
2 少し思う	20	 (43%)
3 思わない	4	 (8%)
4 わからない	4	 (8%)

7 研修会等を通して発達障害等の知識・理解を深めることができたか。

項目	人数	比率
1 できた	31	 (67%)
2 少しできた	12	 (26%)
3 変化なし	2	 (4%)
4 わからない	1	 (2%)





8 今後の医療連携における課題は何だと感じているか記入してください。

番号	意見・要望
1	保護者が生徒の現状を受け入れられるかどうか難しい。
2	必要がありそうな人ほど必要性を感じることができず、なかなか医療とつながらない
3	教職員、生徒ともにもっと周知されて、気軽に相談できるといいと思う。
4	保護者の理解と面談







5	生徒・保護者ともに障害などに対する知識不足とそれに伴う受容の難しさ。困り感のなさ？
6	保護者の関心や理解
7	カウンセリングや医師への相談を「特別なこと」ととらえる風潮が教員にも生徒にもまだまだ根強いと感じます。カウンセリングの実施回数を増やしたり、カウンセラーによる授業を実施するなどして、支援や配慮をしたり受けたりすることが、特別ではないこととして受け入れることが必要だと思います。
8	生徒が医療に繋がりたいという意識。
9	保護者の協力を得ることに尽きると思います。
10	教職員の意識向上
11	scが学校に常駐できるようにしていくことが求められていると思います。
12	特になし
13	こころの病に関する説明会などもやってみてください。
14	可能性のある生徒は学校で診察を受けさせられないか。




9 教職員研修などを通して、就業指導に対する意識改革が行われたと思うか。


項目	人数	比率
1 思う	14	 (30%)
2 少し思う	27	 (58%)
3 思わない	2	 (4%)
4 わからない	3	 (6%)

10 就労体制の整備が進んだと思うか。

項目	人数	比率
1 思う	17	 (37%)
2 少し思う	21	 (46%)
3 思わない	1	 (2%)
4 わからない	6	 (13%)

11 支援が必要な生徒への就労指導について、理解を深めることができたか。





項目	人数	比率
1 できた	15	 (34%)
2 少しできた	23	 (52%)
3 変化なし	3	 (6%)

4 わからない	3	 (6%)
---------	---	--





12 今後の就業支援における課題は何だと感じているか記入してください。

番号	意見・要望
1	調査書の発行や推薦書等の現実的な発行手続きの方法に不安を感じる。特に調査書の発行に関して、生徒からの申し込みが相手側への提出期限直前といったケースがあると困るので、はっきりとしたスケジュール提示と生徒への事前指導が必要であると思う。
2	教職員、生徒ともにもっと周知されて、気軽に相談できるといいと思う。
3	働くことの意義を見出す力の育成
4	本人の特性を本人が理解できるか、支援が必要だと本人が思えるか、こうすれば就労できる(できた)というロールモデルの提示。
5	ノウハウの引き継ぎ
6	睡眠に関わるアンケートの結果の担任へのフィードバックはないのでしょうか？
7	支援を必要としている生徒を早い段階で発見すること、必要な支援を受けられる連携先を確立させること、そのネットワークが担当者が代わっても機能する仕組みを作り上げることが必要だと感じます。
8	教職員の意識向上
9	就労先のますますの開拓が求められていると思います。
10	特になし





13 「個別支援授業」の授業内容について課題を組織として克服することができると思うか。

項目	人数	比率
1 思う	13	 (28%)
2 少し思う	18	 (39%)
3 思わない	10	 (21%)
4 わからない	5	 (10%)

14 外国につながりのある生徒について知識・理解を深めることができたか。

項目	人数	比率
1 思う	15	 (32%)
2 少し思う	25	 (54%)
3 思わない	2	 (4%)
4 わからない	4	 (8%)





15 外国につながるのある生徒の支援の必要性を意識するようになったか。

項目	人数	比率
1 なった	19	 (41%)
2 少しなった	19	 (41%)
3 ならない	4	 (8%)
4 わからない	4	 (8%)

16 今後の外国支援における課題は何だと感じているか記入してください。

番号	意見・要望
1	外国につながるのある生徒に対する指導についての方針がわからない。対象生徒が日本で生活するために必要なことを指導していくのか、ただ外国とつながっているということを教員側が理解し、学校で過ごさせるだけなのか。
2	通信制においては、ほとんど指導体制ができていないので構築していかなければならないと思う。
3	日本の慣習への理解と相談体制
4	高校教育を受けられる日本語能力に達した時点での入学か、入学後の一年間の日本語教育(教科学習の中で日本語話者というだけで行う日本語学習ではなく)。
5	ノウハウの引き継ぎ
6	教職員の意識向上
7	日本語の学習の機会をより充実していくことが求められていると思います。
8	言語の問題がありその克服から始まると思う。
9	生きやすい環境を作ることは大切だが、日本の文化や環境を彼らが知ること大切だと思う。




17 授業のちょっと×2(ユニバーサルデザイン)の視点を踏まえた授業展開を

項目	人数	比率
1 とても意識している	10	 (21%)
2 意識している	21	 (45%)
3 少し意識している	12	 (26%)
4 意識していない	3	 (6%)





18 視覚に訴えた授業づくりを

項目	人数	比率







1 とても意識している	14	 (30%)
2 意識している	19	 (41%)
3 少し意識している	13	 (28%)
4 意識していない	0	(0%)

## 19 見直しをもてる授業づくりを

項目	人数	比率
1 とても意識している	10	 (22%)
2 意識している	22	 (48%)
3 少し意識している	12	 (26%)
4 意識していない	1	 (2%)





## 20 「授業のちょっと×2ハンドブックVer1.0」は

項目	人数	比率
1 とても参考になる	11	 (23%)
2 参考になる	20	 (43%)
3 少し参考になる	12	 (26%)
4 参考にならない	3	 (6%)





## 21 「授業のちょっと×2について」について何かあれば記入してください(自由記載欄)

番号	意見・要望
1	教員にもわかりやすい内容で継続していくことが大切と思います。
2	さまざまな視点から授業準備をするようになりました。
3	機器の扱いのほうにストレスだという自分の能力のなさ。
4	授業者誰もが取り組める柱として、とてもわかりやすいと思います。

## 22 見直しを持てる授業展開の工夫のため、授業サポートカードを

項目	人数	比率
1 大いに利用している	4	 (8%)
2 利用している	13	 (28%)
3 少し利用している	15	 (32%)
4 利用していない	14	 (30%)





23 生徒による授業評価(支援教育、ICT利活用)の視点やよりよい学校生活を送るためのアンケートは生徒の指導支援に参考になったか。

項目	人数	比率
1 参考になった	13	 (28%)
2 少し参考になった	21	 (46%)
3 ならない	4	 (8%)
4 わからない	7	 (15%)



24 今後の授業開発における課題は何だと感じているか記入してください。



番号	意見・要望
1	身につけさせる力の設定と教員間の共通理解
2	教員のICT機器の操作能力の向上
3	ユニバーサルデザインの普及。
4	単位を取得するために授業に出席している生徒の意識を変えるための画期的な創意工夫。
5	継続的かつ組織的に取り組める体制づくりができるか課題です。
6	ICTを利活用するうえで、生徒をどう変えたいのかという目的意識が必要になってくると感じます。
7	自分の努力不足
8	生徒の社会性をより高めていくための授業開発の視点

25 ICTが利活用しやすく整備されたか。

項目	人数	比率
1 された	33	 (75%)
2 少しされた	8	 (18%)
3 されていない	1	 (2%)
4 わからない	2	 (4%)

26 校舎、教科の色分けをしたことで、校舎内や学校生活がわかりやすくなったか。

項目	人数	比率
1 なった	17	 (37%)
2 少しなった	15	 (33%)

3 ならない	3	 (6%)
4 わからない	10	 (22%)

## 27 環境整備について何かあれば記入してください(自由記載欄)

番号	意見・要望
1	ICT機器の種類が多く混乱しやすい。 予約のミスなどが多く気軽に使用できない。 ipadなどデータの入っているものは自分専用のもので欲しい
2	いいと思います。 校舎配置図は3Dのものができればいいなと思います。
3	ICTは整備されたが活用しにくい
4	平場で教職員同士情報交換をしていて、非常に参考になる。
5	環境もさることながら人(教員)のスキルアップ、苦手意識の克服、自由に練習できる環境
6	廊下壁のラインは、デパートのように窓が少なく外が見えない場合は、建物内の位置を知る手がかりとして大いに助かると思うが、窓から外が見えるので、なくてもだいたいの位置はわかると思う。 自分のいる場所よりも自分が行きたい教室がどこにあるのかわからないこともあると思うので、廊下の床や校舎外壁にも目印となる矢印や記号のデザインがあると生徒の支援になると思う。
7	校舎のシンボルカラーを教員が意識することが必要だと思います。
8	とても大きく学校が変化したと思います。
9	担当教員の努力には頭が下がる
10	年が経つにつれて劣化が目立つようになっている。

## 28

## この研究事業全体を通して何かあれば記入してください。

番号	意見・要望
1	委員の方、ご苦労様です。
2	事業終了後の継続性が大切。
3	若い人たちが自由な発想で試すことを応援したい。
4	来年からどうなる？ どうする？ 金と人の限界の中で。
5	WGメンバーに過度の負担があったのではと思います。この事業で得られたものを続けていく覚悟がすべての教職員に必要なだと思います。
6	この事業で得たことはたくさんあったと思います。指導と支援の狭間の中で、どこまで支援をするのかという課題もあります。多様な生徒への対応と

	いう視点でこれからもこの研究の取り組みが深まることを期待します。
7	厚木清南高校を一步も二歩も前進させた素晴らしい取り組み
8	すばらしい成果だと思います。
9	委員の皆様本当にお疲れさまでした。

---

[アンケート集計にもどる](#)